

### ■オープニング挨拶

桃太郎伝説の地、岡山市での開催 参加者は過去最多1,420人

今回のセミナーは、過去最多の1,420 人が集まり、明治初期に岡山で雅楽か ら生まれた「吉備楽」により始まった。 開会挨拶には隅修三副代表幹事・全国 経済同友会セミナー企画委員会委員長 が登壇し、「地域経済の主役は、地域を 基盤とする企業であり、われわれ企業 こそが地方創生の真の担い手であると

いう自覚を持って、行動を起こすべき だ」と参加者に呼び掛けた。

歓迎挨拶に登壇した萩原邦章岡山経 済同友会代表幹事は、「成熟化し、構造 的問題を抱えるわが国の活性化の糸口 を、地方から発信できるよう皆さんと 考えたい」と、本セミナーに対する期 待を述べた。

続いて、伊原木隆太岡山県知事の歓 迎挨拶、ビル・エモット氏による基調 講演(次頁参照)が行われた。その後、 五つの分科会に分かれ、地域活性化に



ついて議論が交わされた。

なお、熊本地震がセミナー開催中に 発生したことを受けて、会場に募金箱 を設置し、義援金を募った。

## 分科会報告 議長より

#### ■第一分科会

日本ものづくりの復権~オープンイノ ベーションによる新たな価値創造~

議長:富田 英之 中部経済同友会 代表幹事

日本企業のものづくりの復権のため に、企業、業種、国、官、学などの枠を 超えた「オープンなタッグを組むべき」 という問題提起に基づき議論を行った。 日本企業を取り巻く環境は急速に変わ りつつある。各社が従来の自前主義の みにこだわって内向きになってはいけ ない。今求められるのは、外部の卓越 した知恵や経験則を自らの強みと融合 させる、開かれたイノベーションであ る。オープンなイノベーションによっ て自前主義から脱却することこそが、 日本の成長の新たな推進力になる。

#### ■第二分科会

分散型電源による地域経済の活性化・ エネルギー供給網の強靭化について

議長:一力 雅彦 仙台経済同友会 代表幹事

「分散型電源による電力供給の実態

と将来ビジョン」「需要側 のスマートコミュニティ の促進策|「再生可能エネ ルギーを活用した地域経 済活性化の促進」という 三つの論点から議論を 行った。原発依存度を限 りなく抑えながらエネル ギー需給率を高めること

が、東日本大震災を経験した日本が進 むべき道である。そのために、防災や 地域の活性化にもつながる新たなシス テムを構築し、再生可能エネルギーの 導入を加速すべきである。また、市民 レベルの意識啓発も欠かせない。地域 の知恵を結集して、実現性の高いビ ジョンを提案していく必要がある。



#### ■第三分科会

### 医療・介護改革で世界の先端を いく安全安心な社会を

議長: 萩原 邦章 岡山経済同友会 代表幹事

高齢者の増加と現役世代の減少が進 む中、公的医療保険を維持するための 財政負担が限界にきている。現状を踏 まえ、サービスの質を維持しつつコス トを削減し、さらに経済の活性化や地 域の魅力づくりにもつなげるという意 欲的な視点から議論を行った。医療や 介護の改革が必要だという問題意識 は、立場を超えて共有されている。今 後の進むべき方向性は、予防分野の市 場をつくり上げていくことと、治療分 野の機能分担と連携を進めることであ り、財政負担を抑制しつつ成長産業と して経済をけん引することが期待され る。改革を実現するために、われわれ 経済人は強い関心を持ち、共に行動し なければならない。

#### ■第四分科会

## 地域の特色ある『スポーツ・文化』を 活かした『まちおこし』『観光振興』

議長: 薩山 秀一 関西経済同友会 代表幹事

「地域の特色あるスポーツ・文化の振 興と、それを活かしたまちおこし「観

光振興」というテーマで議論を行った。 パネリストからは、各地のさまざまな 好事例が紹介され、特別な資源ではな く、見過ごしがちな資源に知恵と工夫 を施して、魅力あるコンテンツに育て ていくことが重要との指摘があった。 2020年東京オリンピック・パラリンピッ クを控えて、地方でも外国人客の増加 が見込まれる。まちづくりや観光振興 の面でも、インバウンドへの期待は大 きい。われわれ自身が地方の良さを見 つめ直し、知恵を出し合い、広域に連 携していくことが必要である。

#### ■第五分科会

## 地方創生に向けた課題〜地方経済 の好循環を実現するために~

議長: 冨山 和彦 経済同友会 副代表幹事

人口の一極集中が進む東京では、さ まざまなひずみが生まれている。一方、 地方は少子・高齢化や人口減少で衰退 しつつある。このままでは日本全体が 破局を迎えてもおかしくはない。そう ならないために、何をすべきかについ て議論を行った。地方創生は、地方だ けでなく日本全体の問題である。われ われ経済人も、わが事としてとらえな ければ問題の解決には至らない。AIや

IoT などによるイノベーションを進める ことも重要であり、特に地方経済の中 心であるサービス産業においては大き な効果が期待できる。さらに、地方創 生に向けた動きを一過性の活動に終わ らせず、恒久的・持続的な成長運動と して継続することも必要だ。その前提 は、個々の企業がしっかりと成長し、 雇用を生み出していくことであり、こ れこそが地方創生の最大の鍵である。

# ■総括挨拶

### 活発な議論の成果を今後の実践へ

総括挨拶に登壇した小林喜光代表幹 事は、「世界がドラスチックに変化する 中で、われわれ企業人がどう変革し、 迅速に対応していけるかが問われてい る。特に2020年東京オリンピック・パラ リンピックを機に、持続可能な社会の 実現に向けて新たな挑戦が求められて いる。過去の延長線上に未来はないと の認識を共有して、全力で取り組まな ければならない」と述べた。その上で 「過去最高の参加者となった今回のセ ミナーでは、五つの分科会で活発な議 論が行われた。この成果を今後の実践 につなげてもらいたい」と、参加者に 要望した。

# 基調講演 「地域」から日はまた昇る

ビル・エモット氏 (ジャーナリスト/「エコノミスト」誌元編集長)

# 中央政府を頼りにせず 地域レベルで未来をつくる

過去10年、世界経済をけん引した中 国をはじめとする新興国の成長は大幅 に鈍化している。欧米各国の経済成長 も弱含みで不安定であり、金利は世界 的に低水準で推移している。米国は公 的金利を上げようとしているが、世界 経済の足踏みで実施が遅れている。

日本はアベノミクスに取り組んでい るが、三本の矢の中で、財政政策は 2014年の消費税増税によって矛盾が生

じている。規制緩和による成長戦略 は、電力自由化や農業改革などで、い くらかの進歩はあったが大きな動きは ない。唯一、一貫性があるのは金融政 策だが、デフレ克服、インフレ期待と いう目的は果たしていない。

日本も欧米も中央政府頼みでは問題 を解決できない。今こそ、よりよい未 来を、地域レベルで創っていく時代で ある。特に日本では東京への一極集中 によって、地方にある素晴らしい資産 が活用されないままになっている。こ れを活用することで、大きなチャンス が生まれるはずだ。

地方の活性化には、近隣自治体との 連携が必須になる。教育・研究機関の 充実も重要であり、そこから民間企業

やベンチャー 企業との協働 が生まれる。 また、日本人 だけでなく、 外国人にも開 かれ、住みや すく、働く場 所として魅力 的であるため



には、生活、文化、環境面も含めたイ ンフラ整備が大切である。それによっ てブランド力が生まれるのだ。さらに、 これからの社会では「知識」が経済成長 のための重要な要素になる。その点で 地方の大学は、地方の活性化に向けた 核に成り得る存在だと考える。